



右寺建首自去天長二年（森次）故少僧都法
 眼和尚位真紹居住件山所建立也即去承和三年
 四月二日民部省下河内國府僧大政官同年三
 月十三日存得傳燈住位僧真紹解解已居
 住件地歷十餘年即達道場号觀心寺望請
 殊賜件地永為寺地謹請 蒙公者被權中納
 言役三位兼行左兵衛尉藤原朝臣良房壹
 併奉 勅依請者省且承知依宣行之者固
 宜承知依件行久存到奉行者加之去貞觀
 十一年（森次）六月十三日治部省存解被

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2022 July to September vol. 215



特集展示

新発見!

「奥の細道」図巻

特別展

河内長野の霊地

観心寺と金剛寺

— 真言密教と南朝の遺産 —

「予色」特別展

京に生きる文化

茶の湯



京都国立博物館

だより

二〇二二年

七・八・九月号

又旅人も舟のりに生涯をこたへるものには
又旅人も舟のりに生涯をこたへるものには

新発見！ 蕪村の「奥の細道図巻」

6月14日(火)～7月18日(月・祝)
【平成知新館1F-2】

蕪村の「奥の細道図巻」が初公開と聞くと、こんな疑問を持たれる方もいらっしゃるかもしれません。「奥の細道」といえば、松尾芭蕉ではないの？、あるいは、よくご存じの方であれば、「京都国立博物館が所蔵する「奥の細道図巻」のことではないの？」。こうした疑問は、いずれも決して間違っているわけではありません。ごもっともです。

『おくのほそ道』(芭蕉の自筆題箋に従って、このように表記することが多いようです)は、元禄二年(一六八九)、四十六歳の芭蕉が門人曾良をともない、江戸から奥羽・北陸をめぐり、大垣へといったるおよそ五か月の旅を素材にした俳諧紀行です。芭蕉の紀行作品のなかでもっとも長編であり、ひとり芭蕉のみならず、日本の紀行文学の代表作に数えられる本書は、現代のあらゆる芭蕉全集に収録されています。

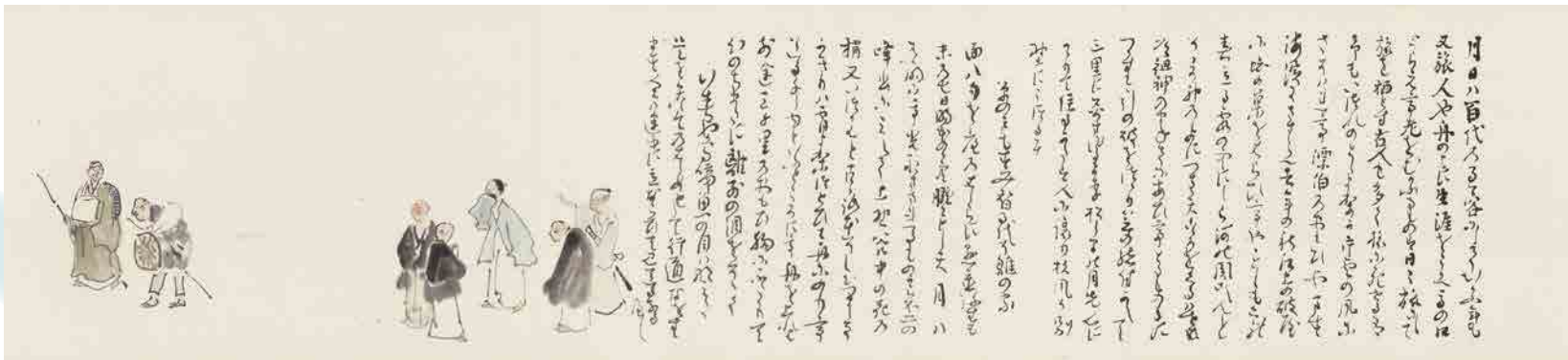
芭蕉の門流に連なる早野巴人に俳諧を学んだ与謝蕪村(一七一九～一八三三)は、若き日に東北地方を放浪し、『おくのほそ道』の足跡をたどりもしたほかに、芭蕉を深く敬愛していました。そんな蕪村は、『おくのほそ道』の全文を書写し、関連する絵を添えた作品をいくつも残しています。これまで現存が知られてきたのは、次の四件です(制作年代順)。

- ・「奥の細道図巻」一卷
安永七年(一七七八) 六月 海に見える杜美術館蔵
- ・重文「奥の細道図巻」二卷
安永七年(一七七八)十一月 京都国立博物館蔵
- ・重文「奥の細道図屏風」六曲一隻
安永八年(一七七九) 秋 山形美術館蔵
- ・重文「奥の細道図巻」二卷
安永八年(一七七九) 十月 逸翁美術館蔵

いずれも、芭蕉の名文とそれを写した蕪村の独特の書、そして蕪村の俳味あふれる絵が一体となった傑作として名高く、そのことは、四件のうち三件までもが重要文化財に指定されていることからよくわかります。

そして、このたび五件目となる作品が新たに発見されました。従来知られたどの作品よりも早い、安永六年(一七七七)の制作で、一連の奥の細道図の起点となったと考えられる重要作です。この新発見の「奥の細道図巻」を、当館所蔵本とともにご覧いただくという特集展示です。年間スケジュールにも掲載が間に合わなかった、文字とおりの緊急企画をどうぞお見逃しなく。

(福士雄也)



奥の細道図巻(部分) 与謝蕪村筆 江戸時代 安永6年(1777)



重要文化財 奥の細道図巻 下巻(部分) 与謝蕪村筆 江戸時代 安永7年(1778) 京都国立博物館



蕪村筆奥の細道図巻模本(部分) 横井金谷筆 江戸時代 19世紀 岡村健守氏寄贈・京都国立博物館

- 3F-1 陶磁
 - 【日本と東洋のやきもの】
6月21日(火)～9月11日(日)
 - 3F-2 考古
 - 【特別公開 熊本・宮崎の古墳文化
—石人と貝輪—】
6月28日(火)～9月11日(日)
 - 2F-1 絵巻
 - 【白描】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 2F-2 仏画
 - 【日本の羅漢図】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 2F-3 中世絵画
 - 【中世の扇絵】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 2F-4 近世絵画
 - 【生誕四二〇年 狩野探幽】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 2F-5 中国絵画
 - 【君子の花蓮】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 1F-1 彫刻
 - 【日本の彫刻】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 1F-2 特別展示室
 - 【特集展示 新発見！
蕪村の「奥の細道図巻」】
6月14日(火)～7月18日(月・祝)
 - 1F-3 書跡
 - 【観心寺の天尊寺経】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 1F-4 染織
 - 【染めと織りの文様—水のかたち—】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 1F-5 金工
 - 【室町時代の金工Ⅲ】
6月14日(火)～7月24日(日)
 - 1F-6 漆工
 - 【祭と会食】
6月14日(火)～7月24日(日)
- ※1F-2は7月20日(水)から24日(日)は閉室となります。
※7月26日(火)～28日(木)は庭園のみ開館、7月29日(金)は全館休館となります。

【特別展】

河内長野の霊地

観心寺と金剛寺

—真言密教と南朝の遺産—

7月30日(土)～9月11日(日)

前期：7月30日(土)～8月21日(日) 後期：8月23日(火)～9月11日(日)

【平成知新館2F・1F】

平安時代後期、弘法大師空海のひらいた高野山金剛峯寺への参詣が京の貴族の間で流行します。やがて、現在の大阪府河内長野市にあたる河内国南部が、山間部に入る直前の経由地として重視されるようになります。近世には庶民も参詣するようになり、高野街道と呼ばれるルートが複数形成される中、河内長野地域はそれらが合流する交通の要所として発展を遂げます。

観心寺と金剛寺は当地に位置する真言宗の大寺院で、河内長野における宗教文化の中心地です。本展では、平成二十八(二〇一六)～三十一(二〇一九)年度にかけて当館がおこなった両寺の文化財調査の成果を公開する機会として、従来知られた名品に加え、新たに見出された寺宝の数々をご紹介します。

一、真言密教の道場

両寺はいずれも八世紀に遡る草創の伝承をもち、平安・鎌倉期には中央権力とのかかわりによって発展します。観心寺は空海十大弟子のひとり実恵(七八六～八四七)と、その門弟・真紹(七九七～八七三)が整備をおこないました。嵯峨天皇の皇后・橘嘉智子の帰依を受け、一流の仏師によってつくられた現本尊「如意輪観音坐像」(本展では模刻を展示)や「伝宝生如来坐像」が安置されました。元慶七年(八八三)の「観心寺勸録録起資財帳」には、これら仏像が並ぶ堂宇の様子が記載されています。

金剛寺は平安時代末期に、阿観(一一三六～一二〇七)によって基盤が整えられます。鳥羽天皇の皇女・八条院の帰依によって境内が整備され、「尊勝曼荼羅図」を立体化した巨大な三尊が金堂に安置されました(完成は阿観没後)。また阿観が教学研究の性格をもつ伝法会を始めたことにより、金剛寺は学問寺として発展することになります。このたびの調査で欠けていた部分が見出された唐の小説『遊仙窟』も、同寺に集積された古典籍のひとつです。

二、南朝勢力の拠点

両寺は、十四世紀に後醍醐天皇やその皇子・後村上天皇の率いる南朝方の拠点となったことで特別な関心をもたれます。とくに後醍醐天皇と主従関係を結んだ当地出身の武将・楠木正成は、少年期を観心寺で学んだと伝えます。また、後村上天皇は金剛寺、つづいて観心寺を行宮(仮の御所)とした時期があり、ときに北朝の攻撃を受けました。このように激動する歴史の渦中に巻き込まれた両寺には、正成自筆の古文書や、後村上天皇ゆかりと伝わる仏像・楽器といった品々が残ります。なかでも、楠木正成とその一族が着用あるいは奉納したと伝わる大量の甲冑は、当地出身の名将への尊崇をひしひしと感ぜさせるものです。本展は伝来する二十二件すべてが一挙に展示される、またとない機会です。

三、河内長野の霊地

室町時代には、河内国守護・畠山氏などの庇護により寺勢が回復します。堂宇の営繕だけでなく、儀礼や法具類の整備もおこなわれたと考えられます。後に豊臣秀吉も嗜んだ金剛寺の名酒・天野酒が寺の収入源となる特産品として成長したのもこの時期で、灌頂に用いられたと伝わる「日月四季山水図屏風」も同じころ寺に入ったでしょう。また、今回見出された「七星如意輪観音版木」は、彫られた永禄十年(一五六七)のころに観心寺の七星如意輪観音信仰が幅広い階層に定着していたことを窺わせます。このように、中世後期から近世にかけては、交通網の発達もあって両寺が在地の大寺院として貴庶を問わず信仰を集めた姿がみえてきます。

本展をご覧いただくことで、河内長野と両寺の濃密な歴史に出会い、そして現地に赴ききっかけとなれば幸いです。

(井並林太郎)

重要文化財の甲冑全22件一挙公開！
重文 藍韋威腹巻 大阪・天野山金剛寺



楠木正成ゆかりの品
重要文化財 腹巻 大阪・観心寺



遠く離れた王朝の余響
琵琶 大阪・天野山金剛寺



室町やまと絵屏風の傑作 国宝 日月四季山水図屏風 大阪・天野山金剛寺



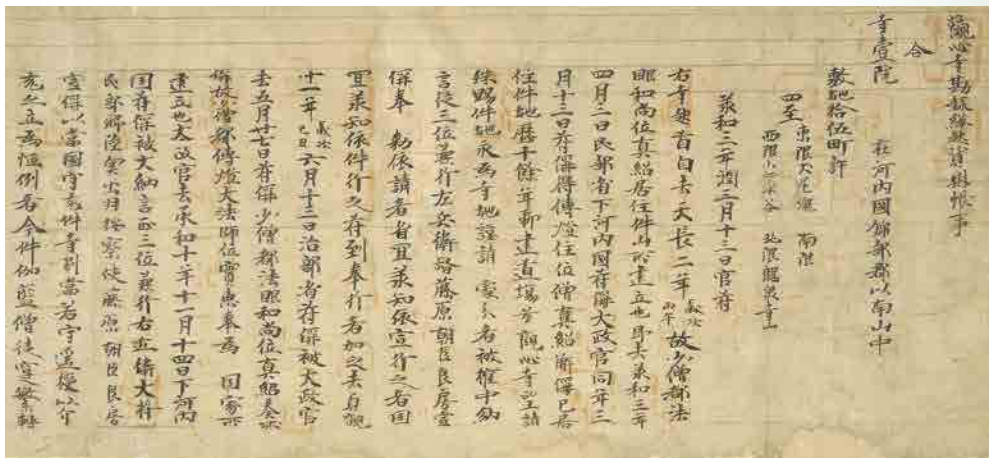
北斗七星と如意輪観音の習合
七星如意輪観音版木 大阪・観心寺



中国・唐代小説の最古写本、失われていた部分を発見！
重要文化財 遊仙窟 大阪・天野山金剛寺



麗しの白風仏
重要文化財 観音菩薩立像 大阪・観心寺



一千年以上前の財産目録 国宝 観心寺勸録録起資財帳(部分) 大阪・観心寺蔵



金堂三尊をあらわした密教仏画
重要文化財 尊勝曼荼羅図 大阪・天野山金剛寺



平安初期に安置された古像
重要文化財 伝宝生如来坐像 大阪・観心寺

画像提供：公益財団法人美術院 撮影：金井杜道

◆夜間開館のお知らせ◆
特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」の開催期間(今月30日(土)～9月11日(日))の金土曜日は、午後8時まで開館します(入館は午後7時30分まで)。ゆっくりと観覧いただいた後は、庭園のライトアップもお楽しみいただけます。ぜひご来館ください。



今はなき鎮守社の御正体
板絵種字五柱明神図 大阪・観心寺



新発見の小像と色鮮やかな厨子
厨子入愛染明王坐像 大阪・天野山金剛寺



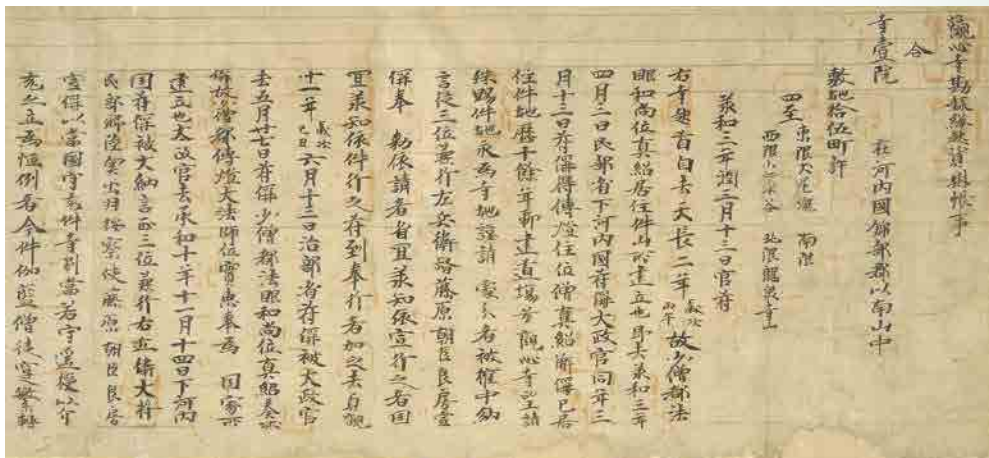
北斗七星と如意輪観音の習合
七星如意輪観音版木 大阪・観心寺



中国・唐代小説の最古写本、失われていた部分を発見！
重要文化財 遊仙窟 大阪・天野山金剛寺



麗しの白風仏
重要文化財 観音菩薩立像 大阪・観心寺



一千年以上前の財産目録 国宝 観心寺勸録録起資財帳(部分) 大阪・観心寺蔵



金堂三尊をあらわした密教仏画
重要文化財 尊勝曼荼羅図 大阪・天野山金剛寺



平安初期に安置された古像
重要文化財 伝宝生如来坐像 大阪・観心寺

画像提供：公益財団法人美術院 撮影：金井杜道

行基開創と伝える真言宗御室派大本山の寺です。阿観(一一三六～一二〇七)が八条院などの帰依を受け再興しました。近年、金堂の大改修を果たし、本尊の大日如来坐像と両脇侍の降三世明王坐像・不動明王坐像が寄託先の京都・奈良国立博物館からお帰りにになりました(年一回公開)。



天野山金剛寺



檜尾山観心寺

役小角開創と伝える高野山真言宗遺跡本山の寺です。空海の高弟実恵(七八六～八四七)とその弟子真紹(七九七～八七三)によって整備され、歴朝の庇護を受けました。本尊の秘仏・如意輪観音坐像はとくに著名です(年一回開帳、本展では模刻を展示)。

〈予告〉
特別展

京みやこに生きる文化 茶の湯

10月8日(土)～12月4日(日)

前期：10月8日(土)～11月6日(日)

後期：11月8日(火)～12月4日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも
展示替を行います。

【平成新館】

中国からもたらされた茶を喫する文化は、時代を経ながら徐々に和様化しました。京都周辺では茶の栽培が活発化し、唐物を賞玩する茶や社寺の門前で参詣者に茶を振舞う一服一銭も生まれ、茶は拡がりをみせるようになりま

す。さらに「茶の湯」という独自の文化を生み出し、今では日本文化を象徴するものとして、世界で広く認知されるようになりました。現在でも茶道の家元や茶家の多くが京都を本拠としていることからわかるように、京都は茶の湯の歴史のなかで、中心的な役割を果たしてきました。

本展では、今もなお茶の湯が生きる京都において、この地にゆかりのある各時代の名品を中心に、京の茶の湯文化を紹介します。
連綿と守り継がれた歴史と、茶人たちの美意識の粋を感じていただければ幸いです。

(降矢哲男)



国宝 大井戸茶碗 銘喜左衛門 京都・孤篷庵



唐物文琳茶入 酸漿文琳



重要文化財 遠浦帰帆図 伝牧谿筆 京都国立博物館 (11月8日～12月4日展示)



国宝 観楓図屏風 狩野秀頼筆 東京国立博物館 (画像提供：東京国立博物館) (10月8日～23日展示)

数年前、大阪市の美術館員として奉職していた頃、別の組織で働く同期職員とはじめて顔を合わせ、自己紹介した時のことです。

「ソウゲンを勉強しています」

「わたしと専門が近いですねー」

嬉々とする彼女にこちらもうれしくなって、話題をひろげてみましたが、何故だかちつとも疎通できない。お互いに、あれ？と気づいて、再確認。

「わたしは中国の宋元時代の絵画を研究しています」

「わたしは中央ユーラシア草原の考古学を研究しています」

わたしのソウゲンガ（宋元画）と、彼女のソウゲンガ（草原画）は、数分間のすれ違いの末に別のものとであると判明。なるほど、世の中でソウゲンといえは「草原」を浮かべるのは自然なこと、草原考古学を専攻していた彼女はなおさらのようでした（ちなみに「草原画」とは、墳墓壁画のようなものをイメージされたみたいです）。研究者同士だとあまり意識せずに使ってしまう「宋元画」という言葉ですが、非常に限定的なものであることを再認識させられました。

すでに多くの先学が言及するように、「宋元画」というのは非常に日本的な概念です。単純に中国の宋と元の時代に制作された絵画をまとめて呼ぶのではありません。前近代において隣国からもたらされた「宋元画」は、まず日本が入手し得たものであり、さらに日本側の好みで選択され、限定的な知識の中で分類され、ときに誤解されたものでした。徽宗皇帝、趙昌、馬遠、

夏珪、牧谿、玉潤などの画家の作品が珍重され、権威づけられ、各時代に日本人の価値観によって縁取られています。足利將軍家のコレクションである東山御物として、漢画の規範として、明清画に対する古典として、美術史上の名品として、輪郭を少しづつ変容させながら評価を与えられつづけてきました。現在、国宝に指定される中国絵画の多くが「宋元画」であることから、日本文化にとつていかに重要視されてきたかがうかがえます。

さて、少し話は逸れますが、展覧会で「伝（作者名）」と表記されたキャプションを見ることがあるかと思えます。これはその作家の作品として信じられてきた（けれども今日的な観点ではそうは言えない）、ということを示すものです。「宋元画」には、先に述べた事情もあって、この「伝（作者名）」とされるものが多いへん多くあります。これは、優れた作品を憧れの画家と結びつけて認識してきた日本人の過去のまなざしを証言するものであって、一概に作品の価値を否定するものではありません。京都国立博物館ではこの秋、茶の湯に焦点をあてた展覧会を開催しますが、ここに「伝（作者名）」とされる「宋元画」が多数出陳される予定です。もちろん、作品そのものが第一に素晴らしきということがありますが、茶の湯という日本に根差して発展した文化を通して、「宋元画」がいかに尊ばれ、愛されてきたのかを垣間見ることが出来ます。ソウゲンガ。今度はきつと、彼女にも伝わるはず。

「ミュージアムパートナー」一覧

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

「ゴールド」三州ペイント株式会社／土屋 和之／株式会社SOMENZホールディングス／株式会社俄／NSSHA株式会社
「シルバー」有限会社竹内美術店／学校法人二本松学院
「ブロンズ」原田清朗

「キャンパスメンバーズ」

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

※令和4年6月末現在

学校法人 瓜生山学園／追手門学院大学／国立大学法人 大阪大学／大阪大谷大学／大谷大学／学校法人 大手前学園／学校法人 関西大学
学校法人 関西学院／国立大学法人 京都大学
学校法人 京都外国語大学／国立大学法人 京都工芸繊維大学
学校法人 京都産業大学／学校法人 京都女子学園／京都市立芸術大学
京都精華大学／京都先端科学大学／京都橋大学／京都府立大学
近畿大学／国立大学法人 滋賀大学／四天王寺大学／就実大学
成安造形大学／学校法人 大覚寺学園／帝塚山大学／学校法人 同志社
奈良大学／奈良女子大学／国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学
学校法人 二本松学院／花園大学／佛教大学／学校法人 立命館
龍谷大学

佐々木丞平名誉館長が
瑞宝中綬章を受章

京都国立博物館で16年の長きにわたり館長を務めた佐々木丞平名誉館長（元国立文化財機構構理事長）が瑞宝中綬章を受章しました。勲章・勲記等については、5月12日に、京都国立博物館にて松本館長より伝達され、同席した東京国立博物館・銭谷前館長らも祝福しました。瑞宝章とは、明治8年（1875）に創設された勲章制度で、国家又は公共に対し功労のある方のうち、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方について授与されます。



写真左より／銭谷前東京国立博物館長、佐々木名誉館長、松本館長

京都国立博物館ウェブサイトリニューアルのお知らせ

5月18日に当館ウェブサイトをリニューアルいたしました。モバイル対応や多言語ページの充実のほか、展示内容やイベント情報が一覧できるカレンダーページなど、より快適にご活用いただけるよう、工夫を凝らしています。ぜひご覧ください。 <https://www.kyohaku.go.jp/>

講座・イベント

《土曜講座》

- 7月2日 「文化財の防災・減災—大地震から文化財を守る—」
京都国立博物館アソシエイトフェロー 中屋菜緒
- 7月9日 「新出の与謝蕪村筆「奥の細道図巻」について」
京都国立博物館主任研究員 福士雄也
- 7月16日 「熊本・宮崎の古墳文化—九州の石の“埴輪”と貝の道—」
京都国立博物館研究員 古谷 毅
- 7月23日 「観心寺と金剛寺での京博社寺調査 漆工編」
京都国立博物館館教育室長 永島明子

《特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」記念講演会》

- 7月30日(土) 「観心寺・金剛寺と南北朝動乱」
元河内長野市教育委員会 尾谷雅彦 氏
- 8月20日(土) 「観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査」
京都国立博物館研究員 井並林太郎
- 8月27日(土) 「観心寺・金剛寺の金属工芸」
京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦
- 9月3日(土) 「観心寺・金剛寺の聖教」
京都国立博物館研究員 上杉智英
- 9月10日(土) 「真言密教のみほとけたち—観心寺・金剛寺を中心に—」
京都国立博物館上席研究員 浅湫 毅

【開催時間・会場・参加方法】*土曜講座、記念講演会共通

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員100名、聴講無料（ただし当日の観覧券等が必要）。

※当日10時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。整理券配布の待ち列が長くなり、適切な間隔が保てないと判断した場合には、配布の開始を早めさせていただきます。

《キャンパスメンバーズデー〈8月9日(火)〉》

キャンパスメンバーズは、学生証または教職員証をご提示いただくと、8月9日(火)にかぎり、特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」を無料でご覧いただけます。この機会にぜひご来館ください。

《特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」キャンパスメンバーズ講演会》

【講師】井並林太郎（京都国立博物館研究員）

【日時】8月9日(火) 14～15時

【会場】平成知新館 講堂

【参加方法】8月7日(日)までにウェブサイトよりお申し込みください。

https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20220809_campus-lec/

これからの展覧会

◆新春特集展示 卯づくし—干支を愛でる—
2023年1月2日(月・祝)～1月29日(日)

◆特集展示 雛まつりと人形
2023年2月4日(土)～3月5日(日)

◆親鸞聖人生誕850年 特別展 親鸞 生涯と名宝
2023年3月25日(土)～5月21日(日)

【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っております。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませますようお願いいたします。

◆庭園のみ開館の予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

庭園のみ開館期間：7月26日(火)～7月28日(木)
9月13日(火)～10月6日(木)

ご利用案内

【開館時間】<6月14日～7月28日> 9:30～17:00
<7月30日～9月11日> 9:00～17:30
(金・土曜日は20:00まで開館)

<9月13日～10月6日> 9:30～17:00
*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】

<6月14日～7月24日>

一般 700円、大学生 350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。
*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺」】

<7月30日～9月11日>

一般 1200円、大学生 600円、高校生 300円

*中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。
*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より400円引き(一般800円、大学生200円、高校生無料)となります。
*前売券・団体券はありません。
*特別展期間中は、名品ギャラリー(平常展示)3階展示室のみの観覧はできません。

【庭園のみ開館期間】

<7月26日～7月28日><9月13日～10月6日>
一般 300円、大学生 150円

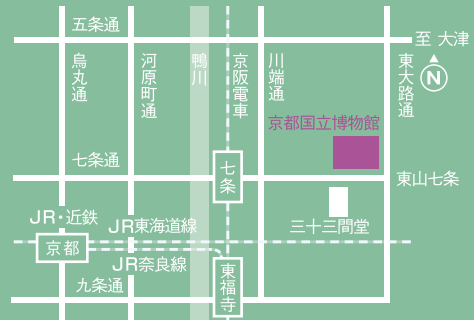
*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。
*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。
*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がございます。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、7月29日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円)切手貼付、宛名明記を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527
TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)
ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2022年7月1日 デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社ライブアートブックス

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

